

○愛知縣尾張國中島郡今伊勢村大字本神戶

郷社 酒見神社

祭神 天照大御神 酒彌豆男命 酒彌豆命

舊と神明社又は北大門大明神と稱す、創立年代詳ならず、但垂仁天皇の御世倭姫命、天照大明神を奉戴して此地に來り、神酒を備へしこと社傳に見えたるが、此の事なほ倭姫命世記に「十年辛丑遷幸于美濃國伊久良河宮、四年奉齋、次于尾張國中島宮、座天三ヶ月奉齋、大神宮諸雜事記に「垂仁天皇即位二十五年丙辰、天照皇大神、云々、倭姫内親王奉戴天云々、次尾張國中島郡一宿御坐、國造進中島神戶」とあり、彼の神鳳抄に「尾張國本神戶内宮御神三箇、皇字沙汰文に「尾張國酒見御厨、神宮雜例集に、第四神封事云々、延曆二十年四月十日格符云、尾張國六十本神戶三十戸中島神戶」とありて、古の酒齋今猶社前土中にあるよし、張州府志其他の書に見えたる等は、蓋當社の創立と關係あるや明かなり、延喜式内社にして、奉唱國內神名帳に「從一位酒見名神」と見え、參考に「天神、一本作正二位須見名神云々、須字蓋傳寫誤歟」と見えたり、明治五年五月郷社に列せられ、四十年七月二十日元と奉祀の熊野社を村内町田社へ合併す。

社殿は本殿、渡殿、祭文殿、拜殿等を具備し、境内地千四百七坪、宮有地第一種あり、數百年を経たる神木あり神寶に彼古甕及岩船今尙存すと傳へられたるが、今現に酒瓶二個、鉢一個、古鈴古鏡をも藏す。

「本神戶の里はいづこと間ふ、宮山といふ小名にて、こゝ、なん本神戶の里といふ、かねて今村主に、酒見宮

き、しより年ごみふりはへてまゐらまほしかりつる酒見の宮をとへば、そのあたりまでものすれば案内してんとて行くほどに、道の左に鳥居立ちたるをさして、こゝぞとをしふ、入りて見れば宮は北にむかひてたゞせ給ふ、云々、伊勢國桑名郡野代の宮に遷幸まし／＼しは、此酒見の宮の後にこそあるらめとぞおもはる云々、齋忌の神ながらなるがたふとさ

中島のもつ神戶の酒見なるかみの齋忌を見るかたふとさ

境内神社

八幡社 秋葉社 大館高門
倭姫命社 神社 水神社

例祭日 八月十六日

神饌幣帛料供進 明治四十年十月二十六日
指定年月日 告示第三百六十五號

會計法適用 明治四十一年九月三十日

氏子戸數 百九十五戸
崇敬者員數 未詳

○愛知縣尾張國中島郡大和村大字宮地字花池

郷社 大神社

祭神 大物主神

舊と三宮明神とも三明神とも稱す、創立年代詳ならず、但延喜の制名神大社に列せられ、奉唱國內神名帳に